

技術系会社員の就業意識及び居住志向に関する調査研究

吉村 英俊

I はじめに

前章において、都市の成長と創造的人材の集積の間には、正の相関があることが分かった。つまり、都市を成長させるためには、創造的人材を引き付け、定着させることが重要であり、これら人材が住みたくなる魅力ある都市づくりを講じなければならないということである。

そこで本章では、これら人材が期待する都市の機能や特性について、全国の主要7都市（北九州市、福岡市、東京23区、浜松市、京都市、広島市、熊本市）¹⁾に居住する技術系会社員を対象に、就業意識及び居住志向について調査し、都市政策の方向性を示唆することとした。なお、2007年度にも同様の調査²⁾を実施しており、都市政策の方向性検討にあたっては、この結果についても参考にする。

《2007年度調査結果》

当該調査は、北九州市、福岡市、東京23区、浜松市、京都市、熊本市に居住する20歳以上60歳未満の技術系会社員を対象に、インターネットリサーチにより、2007年12月11・12日行われた。なお、回答者は618人（103人/都市）であった。

全体的にいえることは、堅実な生活を営むことを第一優先に考えており、経済的な基盤を確保し、平和な家庭を築こうとしていることである。この家族を単位とする生活の基盤ができたならば、自分自身の能力向上や楽しみ、さらには社会貢献に精を出そうと考えている。もうひとつ重要なことは、ひとつの会社にしがみつ়くのではなく、条件の良いところがあれば、転職を簡単にしてしまうということである。なお、このとき転職の誘引として、仕事そのものよりも生活環境が優先される。

次に、属性（地域、年代、職種、最終学歴など）における差異について、とくに、研究開発等に従事する創造的人材がどういった志向をしているのか、興味深いところであったが、まず、ほとんどの項目において、「地域」による差異は見られなかった。つまり、東京だから、福岡だからといって差異はないということである。「年代」では、20代の若者は自己研鑽意欲が強く、アクティブな生活を得るために最良の職、最良の居住地を得ようと考えている。一方、子育てや中間管理職として仕事に忙しい40代は余裕がなく、今が精一杯といった感じが受け取れる。「職種」では、当初、研究開発などの創造的な業務に従事する人は、まちの賑わいを好み、転職や転居に対してポジティブではないかと予想したが、一部、デザイン職でこういった志向が見られたものの、総じて、製造や営業、事務などの現業職と志向に差異は見られなかった。「最終学歴」では、大学院修了者において、仕事や自己研鑽への意欲が強く、この実現のためには転職や転居をいとまないといった姿勢が見られた。ただし、彼らは自分を生かせる仕事に対してストイックなのであって、まちの賑わいを求めているのではなく、逆に仕事以外は静かな生活を望んでいる。なお、大学卒、短大・専門学校卒、高校卒との間には差異はなかった。

II 調査方法

調査の対象及び方法は次のとおりである。

- 調査対象都市 : 東京 23 区、浜松市、京都市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市 (7 都市)
- 調査対象者 : 職業・・・技術系会社員、年齢・・・20 歳以上 60 歳未満
- 調査方法 : インターネットリサーチ (株式会社マクロミル www.macromill.com)
- 回答予定数 : 100 件/都市 (合計 700 件)

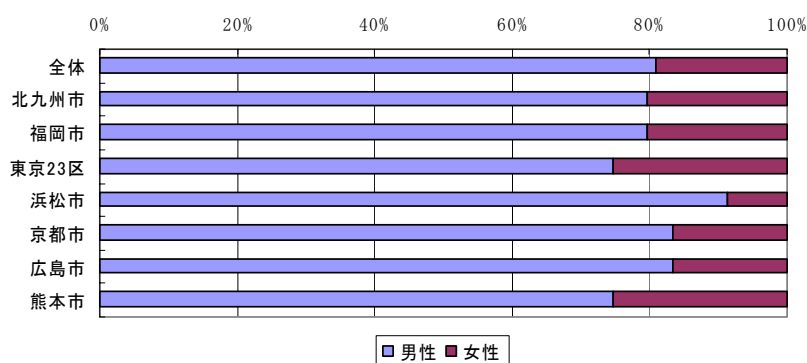
なお、調査票を章末に添付する。

III 調査結果

1. 回答者の内訳

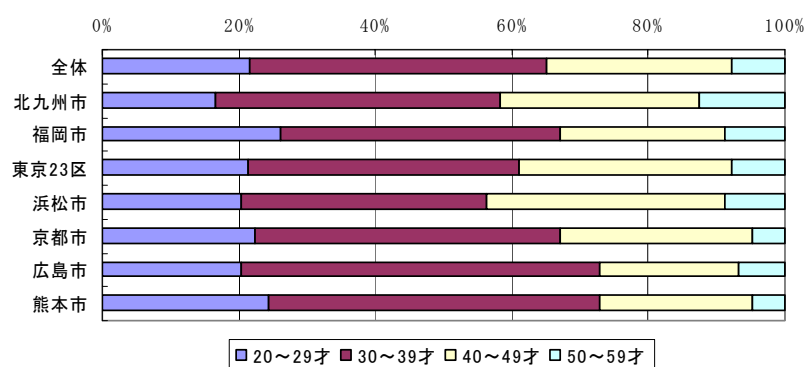
(1) 性別

男性が 8 割を超え多く、とくに浜松市は 9 割を超える。



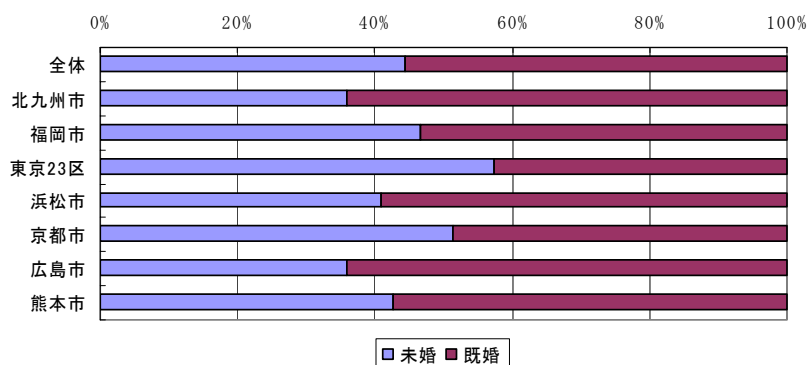
(2) 年代

北九州市と浜松市において 40 歳以上が多い。また北九州市において 20 代の若者が少ない。



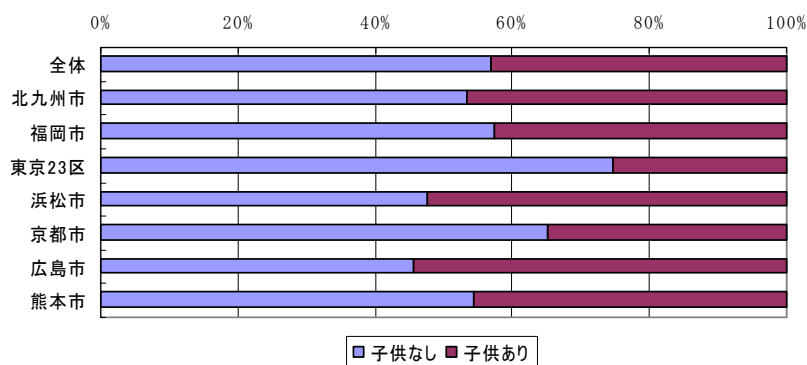
(3) 未婚既婚

東京 23 区、京都市において未婚者が多く、北九州市、広島市において少ない。



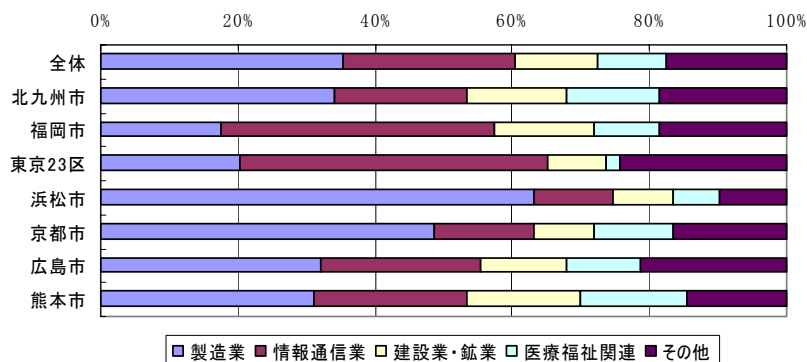
(4) 子供有無

東京 23 区、京都市において子供がいない人が多く、一方、広島市と浜松市においては子供がいる人が多い。



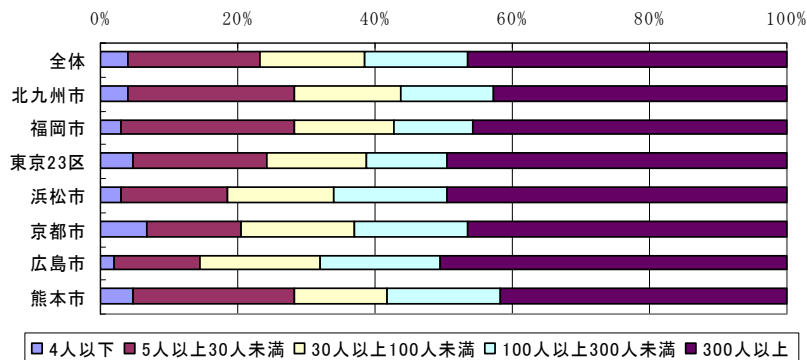
(5) 所属する企業の業種

東京 23 区、福岡市において情報通信業に就業する人が多く、浜松市、京都市において情報通信業に就業する人が少なく、製造業が多い。



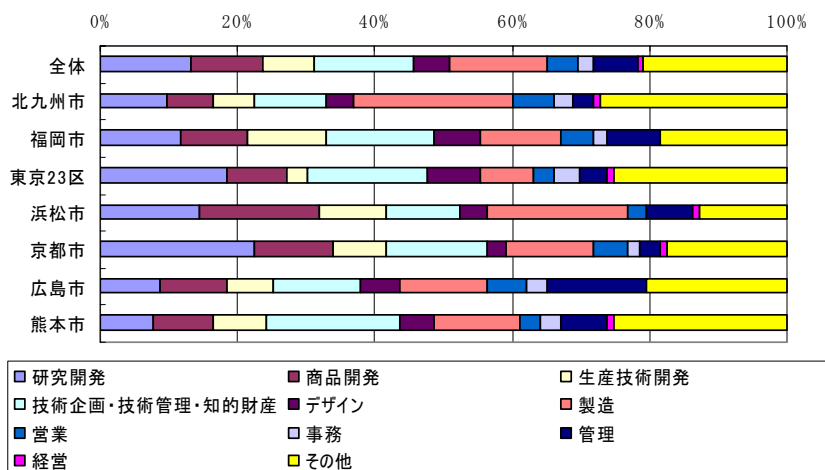
(6) 所属する企業の規模（従業員数）

浜松市、広島市において規模の大きな企業で働く人が多く、一方、北九州市、福岡市、熊本市において規模が小さな企業で働く人が多い。



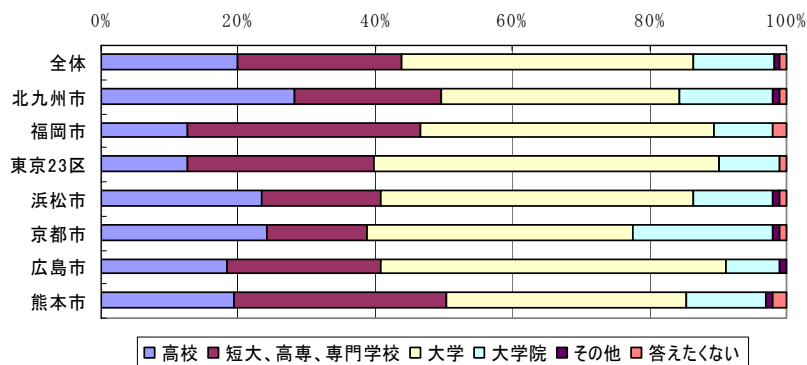
(7) 所属する企業での職種

北九州市において開発に携わる人が少なく、京都市、浜松市、福岡市、東京 23 区では多い。東京 23 区は現業に携わる人が少ない。



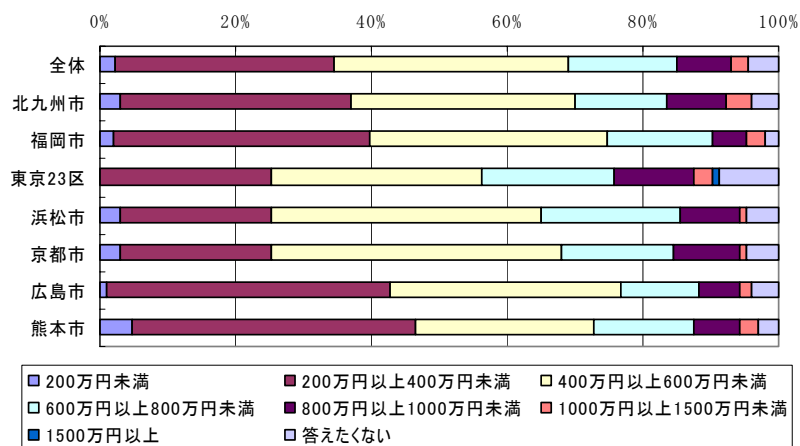
(8) 最終学歴

京都市において大学院卒が多く、北九州市において高校卒が多い。福岡市、広島市、東京 23 区においては短大・高専・専門学校卒が多い。



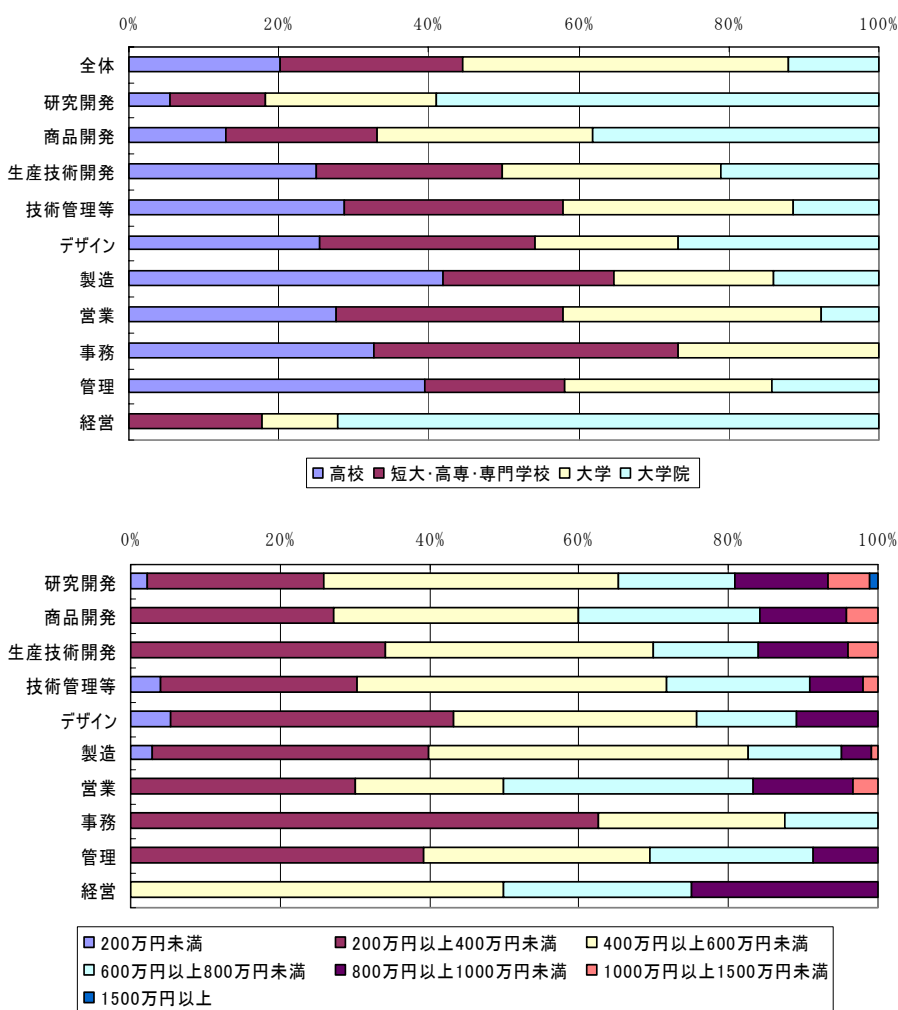
(9) 年収

東京 23 区において高所得者が多く、福岡市、広島市において少ない。



(10) 学歴と職種、収入、企業規模の関係

高学歴者は、開発関連の職に従事していることがわかる。また、開発関連の職種従事者は大企業に就職（今回図示していない）し、収入が多い。



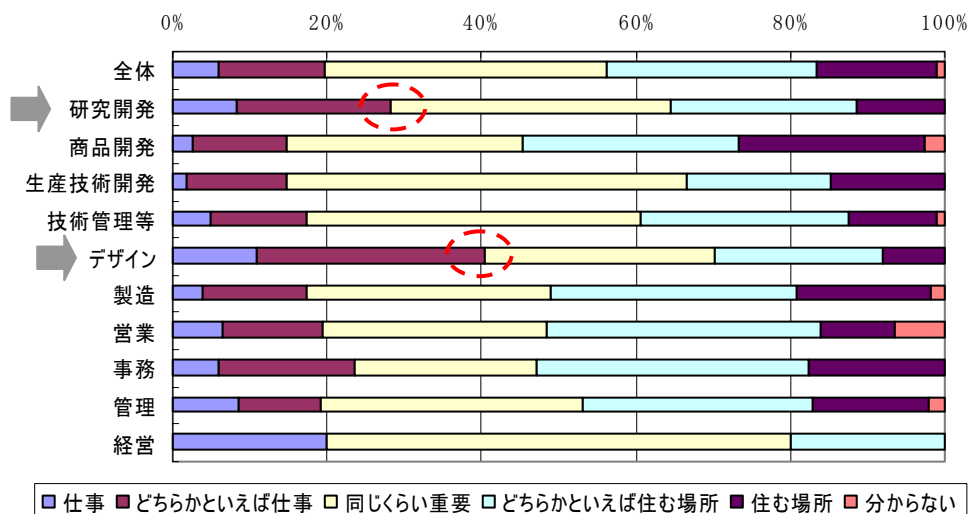
2. 分析結果

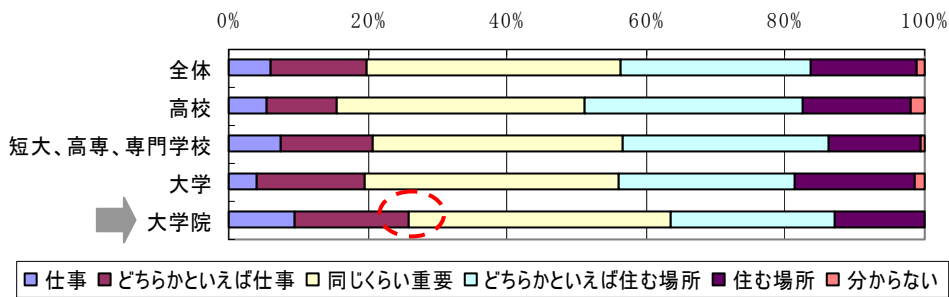
(1) 仕事と住む場所のどちらが重要か

全体的には、「同じくらい重要」が1/3強で最も多い。「仕事」又は「どちらかといえば仕事」と回答した人が20%であるのに対して、「住む場所」又は「どちらかといえば住む場所」と回答した人が40%強あり、どちらかといえば住む場所を重視していることが分かる。

属性別にみても、まず「居住地」では福岡市居住者は仕事を重視する割合（27%）が高く、逆に熊本市居住者は仕事を重視する割合（13%）が低く、住む場所が高い（50%）。東京23区居住者は平均に近く、多様な人がいることが分かる。なお、京都市居住者は二極化している。「性別」では女性の方が仕事を重視する割合が高く、現在の世相を反映しているといえる。「年代」では20代と50代において仕事を重視する割合が30代40代より高い。なお、30代40代が仕事を重視する割合が高くないのは、仕事と子育ての両方に追われていることの表れであると考えられる。また20代は二極化している。「未婚既婚」では未婚者の方が仕事を重視し、既婚者の方が住む場所を重視している。妥当な結果といえる。「子供の有無」では子供なしの方が仕事を重視する割合が高く、妥当な結果といえる。ただし、住む場所においては両者の間に差異はない。「所属する企業の業種」では情報通信業の就業者において、住む場所を重視している割合がやや高い（49%）。「所属する企業の規模」では4人以下の小規模企業勤務者において、他よりも住む場所を重視している割合（55%）が高い。「職種」では、デザインと商品開発従事者において仕事を重視するものの、その他の職種では顕著な傾向は見られなかった。「学歴」では高学歴者ほど仕事を重視している割合が高い。「収入」では200万円未満の人において、仕事を重視する割合（30%）が高く、これはやむを得ない理由によるものと思われる。

創造的人材の視点からみても、デザインと商品開発従事者、大学院修了者において、仕事を重視する割合が他者に比べて高いことが分かった。





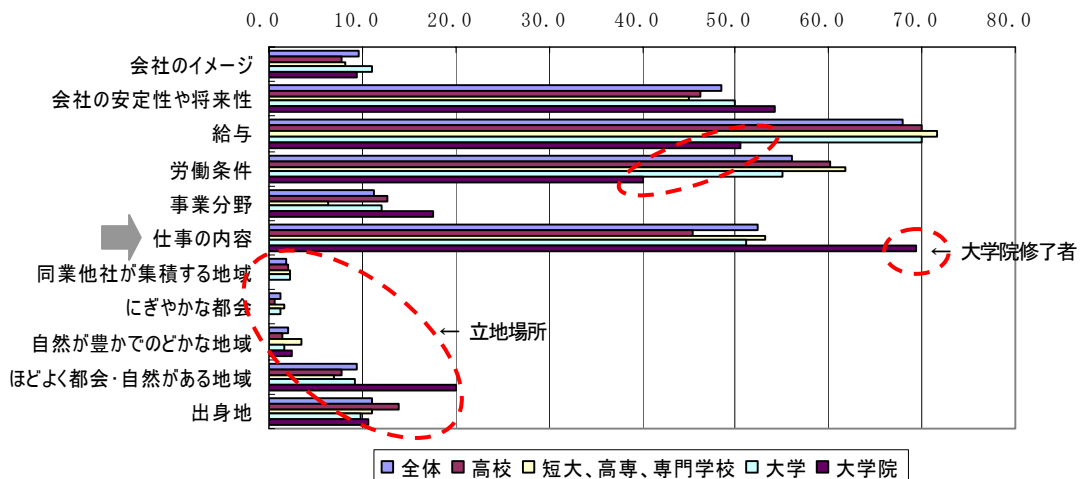
(2) 仕事を選ぶとき、何を重視するか

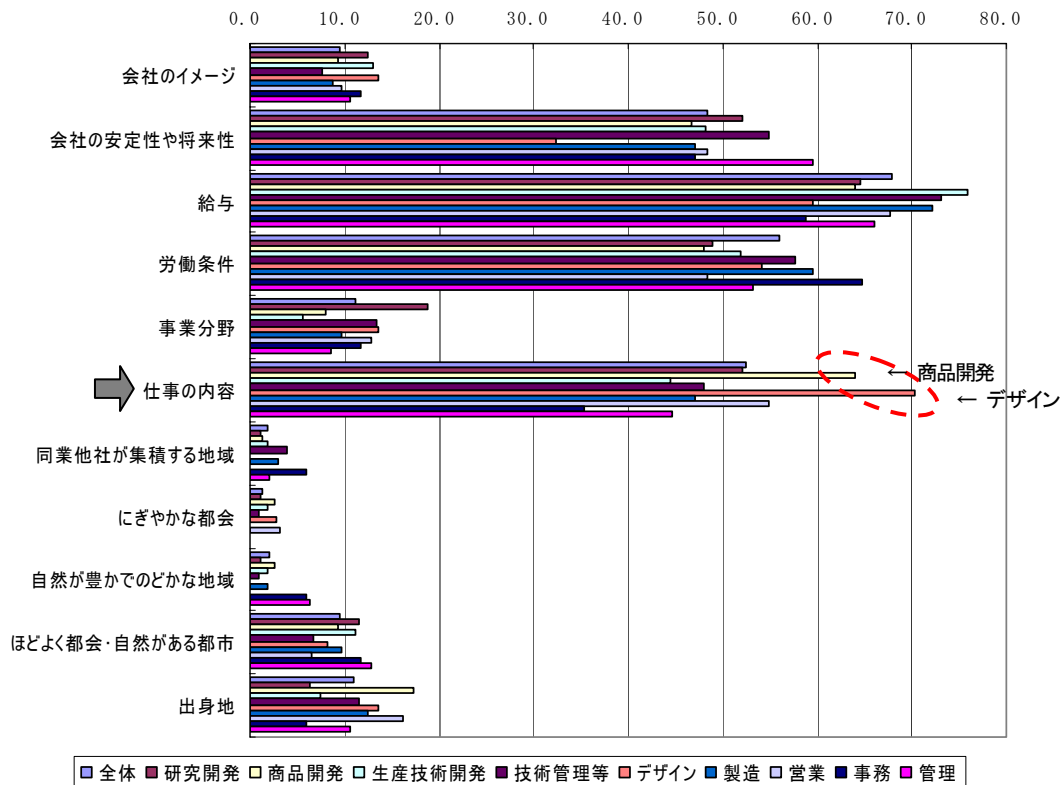
全体的には、「給与」「労働条件」「会社の安定性や将来性」といった安心して仕事ができることと、やりがいや自分自身が成長できるといった「仕事の内容」を評価している。一方、会社の立地場所への関心は極めて低い。

属性別にみても、「居住地」では東京23区居住者は給与を重視する一方、仕事の内容を軽視している。また、浜松市居住者は会社の安定性や将来性を軽視する一方、仕事の内容を重視している。

「性別」では男性が女性に比べて会社のイメージや安定性・将来性を重視するのに対して、女性は労働条件や仕事の内容を重視しており、女性の方が仕事を真正面から受け止めていることが分かる。「年代」では50代が安定性や将来性を重視する一方、労働条件を軽視しており、企業内での微妙な立場を反映しているものといえる。「未婚既婚」では既婚者は未婚者に比べて安定性や将来性を重視しており、また「子供の有無」では子供ありが安定性や将来性を重視するのに対して、子供なしは労働条件を重視するなど、妥当な結果が得られている。「所属する企業の業種」では医療福祉関連業の従事者が労働条件を重視しており、業界特有の理由があるものと推測される。「所属する企業の規模」では規模が小さいところの就業者ほど労働条件を重視し、大きいところほど安定性や将来性を重視している。「職種」ではデザインと商品開発従事者において、また「学歴」では大学院修了者において仕事の内容を重視しており、前項同様、これらの属性においてはキャリア志向が強いことが分かる。「収入」では高くなるほど安定性や将来性を重視している。

創造的人材の視点からみても、デザインと商品開発従事者、大学院修了者において顕著な傾向が表れている。彼ら／彼女らはすでに比較的大きな規模の企業に所属して、相応の給与と労働条件を付与されるなど、安心して仕事に取り組める恵まれた環境を確保している。そして、その中で仕事にやりがいを求め、キャリアを向上させようとしている。



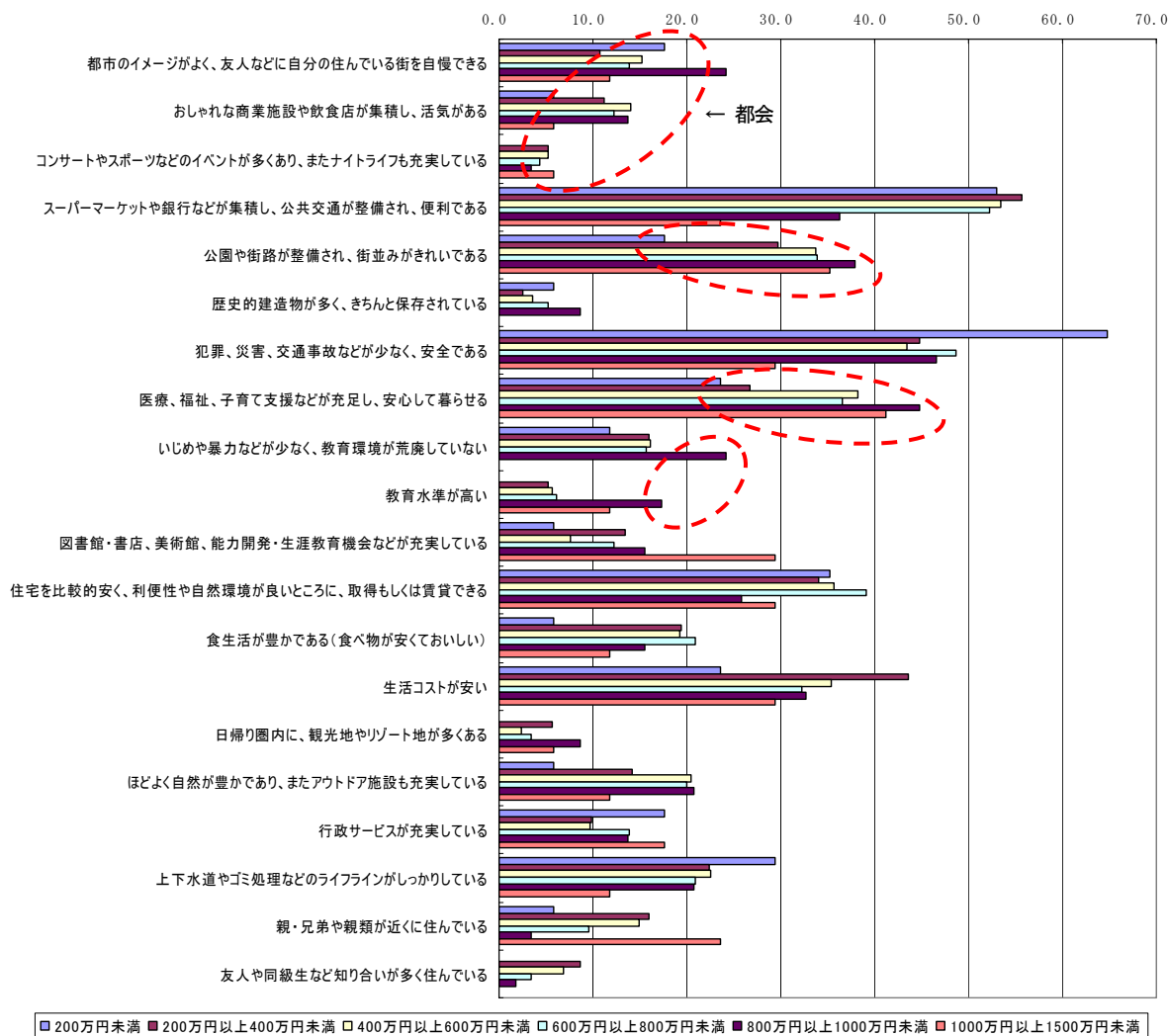


(3) 住む場所を選ぶとき、何を重視するか

全体的には、1/3以上の評価を得ている項目を上位から挙げてみると、「便利」>「安全」>「生活コスト」>「安心」>「住宅」となり、前回の調査同様に堅実に生活できる環境を欲していることが分かる。一方、都会的な賑わいについては総じて評価は低い。

属性別にみると、「居住」では東京23区及び福岡市居住者は、他都市居住者に比べて街の賑わいや食生活、生涯教育を評価しており、都会的な生活を志向していることが分かる。「性別」では女性はスーパーマーケットや銀行などの集積や公共交通の整備といった便利さを高く評価している。「年代」では若者は賑わい、子育て世代の30代は便利さ、また年齢を重ねるほど、安心、ライフライン、行政サービスへの評価が高くなっていることが分かる。「未婚既婚」では既婚者は安心や教育、未婚者は便利さや生活コストを評価しており、妥当な結果が得られている。「子供の有無」では未婚既婚同様に、子供ありは安心や教育、子供なしは便利さや生活コストを評価している。前問も含めて、未婚既婚と子供の有無の間には相関があるといえる。「所属する企業の業種」では医療福祉関連業の従事者が安心を重視しており、前問でも仕事を選択する時に労働条件を高く評価するなど、この業界には特有の何かがありそうである。「所属する企業の規模」では規模は大きいほど安心を重視し、一方、規模が小さくなるほど親・兄弟の近くに住むことを重視している。「職種」ではデザイナーが便利さを評価する以外は、顕著な差異はみられない。「学歴」ではとくに顕著な傾向はなかった。「収入」では高所得になるほど街並みや安心、教育を評価し、低・中所得者は便利さや生活コストを重視している。

創造的人材の視点からみると、職種や学歴において特異な傾向はみられず、また属性によって大きな差異や傾向がみられないものの、創造的人材が多いと思われる大企業や高所得者においては、安心や街並み、教育を評価することから、堅実かつ平穏志向が強いといえる。



(4) 現在の居住地

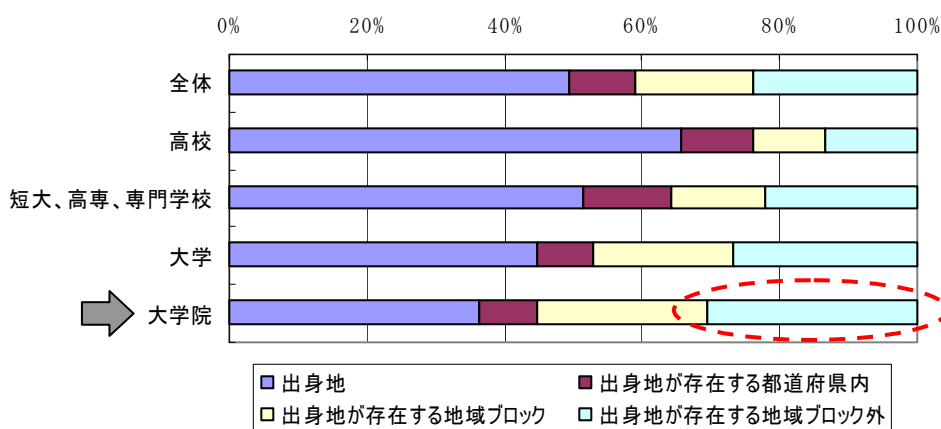
以下、現在住んでいる、もしくは将来住んでみたいと思う居住地について、前回の調査でキーワードの一つになっていた「出身地」にフォーカスしながら述べる。

まず、現在の居住地と出身地の関係についてみてみたい。全体的には、現在半数の人が出身地に住んでおり、出身地の周辺地域まで含めると 3/4 を超え、居住地を決定するにあたって、出身地が重要な要素であることが分かる。

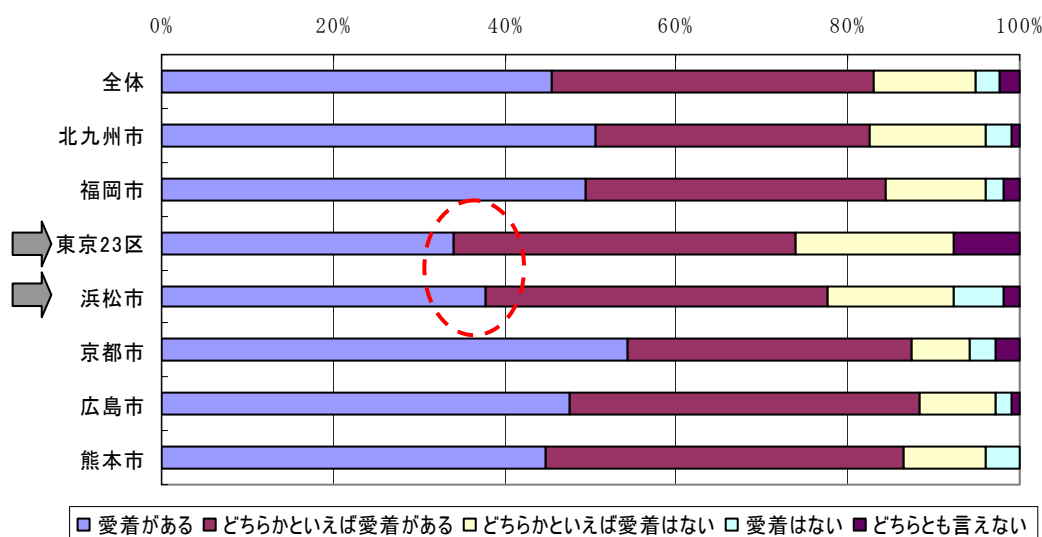
属性別では、「居住地」において、工業都市であり製造職が多い北九州市と浜松市、さらに中規模都市である熊本市の居住者において出身地に住んでいる人の割合が多い。一方、東京 23 区においては全国から人が集まってくることから、出身地の割合は少なくなっている。「年代」では 50 代が他の世代に比べて出身地に住んでいる割合が高い。「未婚既婚」では未婚者の方が出身地への依存度は小さく、流動性が高い。また「子供の有無」においても、比較的自由である子供なしの方が出身地への依存度は小さく、逆に子供ありは出身地を志向し 50%超が出身地に住んでいる。「所属する企業の業種」では、情報通信業従事者において出身地への依存度が低く、この業界の人材の高い流動性を裏付ける結

果となっている。「所属する企業の規模」では、規模が大きいくほど出身地依存度が低い。これは大企業は全国に事業所を構えていることによるものと思われる。「職種」では開発職と現業職において差異はないものの、強いていうならば研究開発職は出身地志向が弱い。「学歴」では高学歴者ほど、出身地に住んでおらず、また同様に「収入」においても高所得者ほど出身地志向が弱い。

創造的人材の視点から言及するならば、全体的に出身地への愛顧があるものの、これら人材においては前問からも分かるように仕事への関心が高いことから、出身地への拘りは比較的小さいといえる。

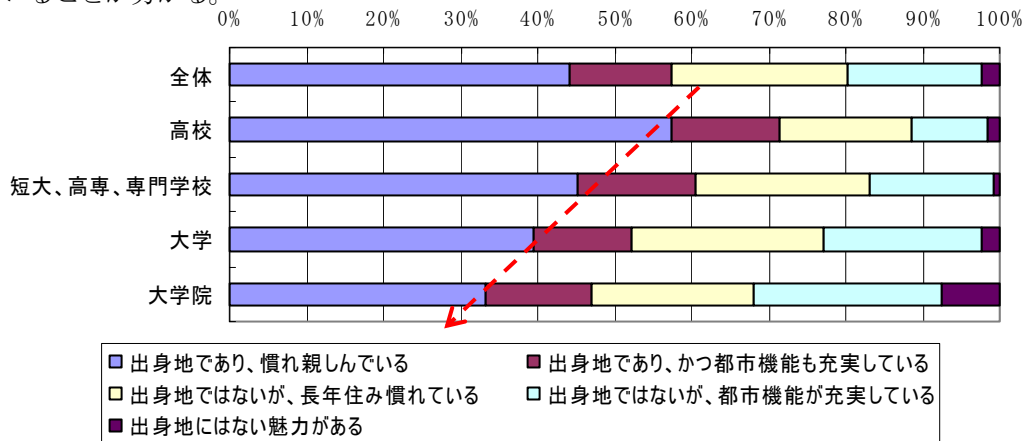


次に、現在住んでいる都市への愛着の有無をみると、半数近く（46%）が「愛着がある」と思っており、「どちらかといえば愛着がある」を含めるとその割合は80%を超え、大半が現在住んでいる都市に愛着を感じているといえる。なお、地方出身者が多い東京23区と浜松市居住者において愛着度が低い以外は、全ての属性において同様の傾向にある。



愛着がある理由をみると、「居住年数」に起因するもの、つまり、長く住んでいることが愛着の要因になっているものが最も多く（66%）、以下「出身地」に起因するもの（57%）、「都市機能」に起因するもの（30%）と続く。出身地に長く住み、慣れ親しんでいることが愛着度に最も貢献していることが分かる。

属性でみてみると、東京 23 区及び福岡居住者、20 代の若者、女性、子供のいない人が、都市機能を愛着がある理由として挙げている。また大企業勤務者、高学歴者、高所得者といった創造的人材に共通する特性を有している人は、都市機能を評価し、出身地への拘りは強くない。これら人材は、現在の居住地を古くからの友達がいるとかいった情実で評価するのではなく、機能面から客観的に評価していることが分かる。



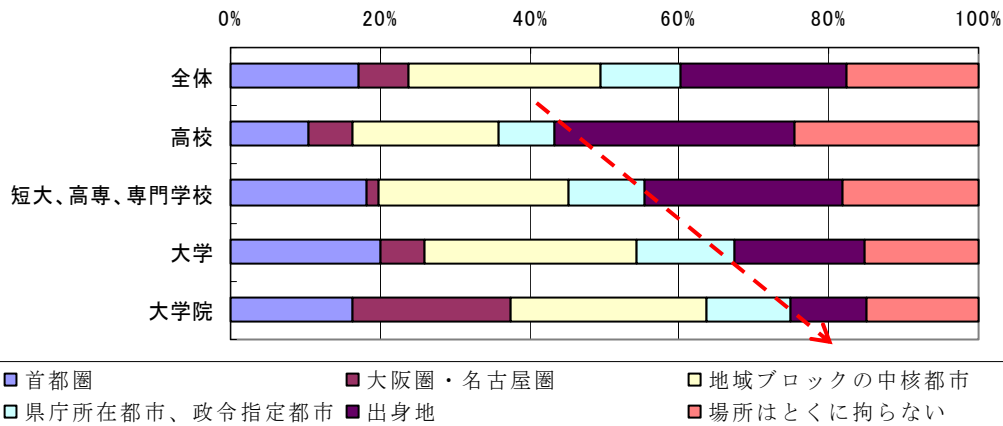
なお、愛着がない理由のうち、最も多いのが「出身地に戻りたいから」(23%) というものであり、出身地への強い意向が伺える。

(5) 将来の居住地

将来住みたい都市についてみてみたい。全体では福岡市や仙台市、札幌市といった九州、東北、北海道という地域ブロックの中核となる都市に住みたいと考えている人が最も多く (24%)、以下、出身地 (21%)、首都圏 (16%) と続く。第一位ではないものの、出身地は根強い人気がある。

属性別にみると、「居住地」では前述の現在の居住地のとおり北九州市、浜松市、熊本市の居住者において出身地志向が強く、また東京 23 区居住者は 3/4 が今後とも首都圏に住み続けたいと考えている。「性別」と「年代」では女性と 50 代の人において地域ブロックの中核都市への居留意向が強い。「未婚既婚」「子供の有無」では未婚者と子供なしにおいて首都圏への居留意向が強い。「所属する企業の業種」では情報通信業の従事者が首都圏居住の意向が強く、これは情報通信関連の仕事が首都圏に集中することによるものと考えられる。「所属する企業の規模」では特異な傾向はみられないものの、規模が小さい企業に所属している人ほど出身地志向が強い。「職種」では研究開発職が首都圏を志向する一方、製造職は出身地への居留意向が強い。「学歴」では高学歴者ほど大都市、逆に低学歴者ほど出身地を志向する傾向にある。また「収入」についても同様に、高所得者ほど首都圏を志向し、低所得者ほど出身地を志向する。

創造的人材の視点においては、仕事の質への拘りがある彼ら／彼女らは、自らを成長させることができる仕事を確保するために、革新的な企業が集積し、都市機能が充実する地域ブロックの中核都市以上の都市に住みたいと考えている。



なお、退職後の意向としては、「現在のままでよい」と思っている人が半数を超え、前述の現在の居住地への愛着度の結果をそのまま反映している。また以下、「安全・安心なところ」(16%)、「生活コストが安いところ」(11%)と続く。

Ⅲ 創造的人材の集積に向けた示唆

前項の調査結果から、創造的人材は極端に異質な特性・志向を有しているとはいえないものの、次のように特性を整理することができる。

- 研究開発や商品開発といった開発職に従事する創造的人材は、一般に大学院を修了するなど高学歴であり、規模の大きな企業に就職し、高収入を得ている。経済的に恵まれた環境にある。
- どちらかといえば、仕事よりも住むところを重視する人が多い中、創造的人材は仕事を重視している。仕事は給与や労働条件といった経済的なものよりも、やりがいや仕事を通じて成長できることを優先しており、仕事を自己実現の手段として位置づけている。創造的人材はマズローの欲求段階説³⁾でいうところの第3段階の親和(集団帰属)の欲求はすでに満足しており、仕事をとおして第4段階の自我(認知)の欲求や第5段階の自己実現の欲求を求めている。
- 創造的人材は仕事が好きであり、その仕事を真正面から取り組めるように、仕事以外では安心して生活できる平穏な環境を欲している。つまり、都会の賑わいや華やかさよりも、犯罪のない安全な環境、医療施設が充足し安心して暮らせる環境、良質な住宅やきれいな街並みが整備された環境、高度な学校教育や文化施設が充実した環境といった堅実に生活できる環境を求めている。
- その他、住むところに対して、創造的人材は出身地への拘りが他に比べて小さく、都市機能を重視している。長く住むことによって醸成されるその土地への愛着よりも、実質的な機能を重視している。

以上を総括するならば、創造的人材は「自分自身が成長することができるワクワクする仕事があり、都市機能が充実・充足し、良質な住宅地がある都市に住みたい」と考えているといえる。

それでは、こういったことを満足する都市はどういったところなのか？ 調査結果からも分かるように彼ら／彼女らは3大都市圏や福岡市や札幌市、仙台市といった地域ブロックの中核都市への居住を希望しており、一言でいうならば、「大都市」といえる。少なくとも、政令指定都市や中規模以上の県庁所在都市でなければならないといえる。この結果は、筆者の先行研究⁴⁾において求められた地域イノベーションの促進要因と一致しており、イノベーションは創造的人材によって引き起こされるこ

とから、妥当な結果であるといえる。

都市は、創造的人材の仕事への欲求を満足させるために、サイエンスパークを整備し、開発機能を備えた企業やその事業所、大学をはじめとする学術研究機関の立地を促進しなければならない。なお、大規模工場の立地は雇用創出には有益であるが、創造的人材の集積を図るうえで、インセンティブにはならない。また一方、これら人材の住の部分の欲求を満足させるために、ショッピングセンターや医療機関、文化施設が集積し、公共交通が行き届いた便利できれいな街並みを有した清閑な住宅地を整備しなければならない。多少家賃や地価が高くても、平穏と快適さを享受できる環境であれば、創造的人材は好んで住むものと思われる。

北九州市においては、学術研究都市⁵⁾を整備する中で、学術研究機関や企業の誘致と併せて住宅地の整備を行っている。2001年4月に大学ゾーンがオープンし、その後も周辺の開発が逐次進んでおり、豊かな自然環境とマッチしたワンランク上の住環境を実現している。このことは学術研究都市の更なる研究開発機能の集積を図る上での的を射たものであり、今後より徹底して展開されることが望まれる。そして、ブランド化されることで創造的人材が引き寄せられる好循環な環境が醸成されるものと思われる。

ここで最後に一つ課題を挙げておきたい。つまり、これまで述べた方途は少なくとも50万人以上の大規模な都市を対象にするものであり、中小規模の都市はどうしたらよいかということである。

大都市の周辺に位置し、経済圏を構成する都市であるならば、衛星都市に徹して、良質な住宅地とアクセスを整備することが一つの方策として考えられる。例えば、福岡市とそれらの衛星都市である古賀市、筑紫野市、前原市などの関係が好例である。

しかし、大都市の経済圏に属さない大多数の都市はどうしたらよいか。先の衛星都市がフォロワーとして大都市と共生する戦略をとるのに対して、ニッチャーとして得意な分野に地域資源を集中させることが考えられる。例えば、福岡県の飯塚市は九州工業大学の情報工学部やパナソニックの研究所を誘致して、IT分野の人材や研究機関・企業の集積を図り、e-zuka（イーヅカ）と呼ばれるまでになっている。

今回、創造的人材の就業や居住について志向を明らかにすることができた。今後さらに、志向を細分化し、要素・要因を突き止め、都市を規模や特性等によって幾つかの категорияに分け、創造的人材の集積に向けた具体的な方策を検討していきたい。

〔注〕

1) 対象都市の選択理由

- ・東京23区：日本の中心地であり、情報・トレンドの発信拠点である。
- ・浜松市：北九州市同様、県庁所在都市でない政令市であり、古くからの工業である。
- ・京都市：国内で最もうまく産業クラスターが形成されている都市といわれている。
- ・熊本市：全国に数多く点在している人口50万人前後の県庁所在都市である。

2) 吉村英俊「働き方とライフスタイル」『知的創造都市“Creative City”の形成・促進に関する研究』平成19年度北九州市立大学都市政策研究所産業経済プロジェクト、pp103-135、2008

3) 吉村英俊「北部九州地域の拠点都市のイノベーション構造に関する研究」、産学連携学第4巻第2号、pp44-53、産学連携学会、2008

- 4) アメリカの心理学者、アブラハム・マズローが唱えたものであり、人間の欲求は5段階のピラミッドのようになっていて、1段階目の欲求が満たされると、その欲求を順次求めるというものである。この5段階の欲求は、生理的欲求>安全の欲求>親和（集団帰属）の欲求>自我（認知）の欲求>自己実現の欲求の順になっている。
- 5) 北九州学術研究都市ホームページ : <http://www.ksrp.or.jp>

〔調査票〕

- (1) あなたは現在、どのような業種の企業で働いていますか？（1つだけお答えください。）
なお、複数に該当する場合は、主な業種をお答えください。
- ①製造業
 - ②情報通信業（IT 関連）
 - ③建設業・鉱業
 - ④医療福祉関連
 - ⑤その他（ ）
- (2) あなたが現在、働いている会社の従業員数はどのくらいですか？（1つだけお答えください。）
- ①4 人以下
 - ②5 人以上 30 人未満
 - ③30 人以上 100 人未満
 - ④100 人以上 300 人未満
 - ⑤300 人以上
- (3) 現在、働いている会社でのあなたの職種は何ですか？（1つだけお答えください。）
なお、複数に該当する場合は、主な職種をお答えください。
- ①研究開発 ②商品開発
 - ③生産技術開発 ④技術企画・技術管理・知的財産
 - ⑤デザイン ⑥製造
 - ⑦営業 ⑧事務
 - ⑨管理 ⑩経営
 - ⑪その他（ ）
- (4) 差し支えなければ、あなたの最終学歴を教えてください。（1つだけお答えください。）
- ①高校
 - ②短大、高専、専門学校
 - ③大学
 - ④大学院
 - ⑤その他（ ）
 - ⑥答えたくない

(5) 差し支えなければ、あなたの昨年度の年収を教えてください。(1つだけお答えください。)

- ①200万円未満
- ②200万円以上 400万円未満
- ③400万円以上 600万円未満
- ④600万円以上 800万円未満
- ⑤800万円以上 1000万円未満
- ⑥1000万円以上 1500万円未満
- ⑦1500万円以上
- ⑧答えたくない

(6) あなたが現在、お住まいの都市と、出身地(都市)との関係について教えてください。(1つだけお答えください。)なお、転居が多く、出身地が明確でない場合は、居住期間が長いなどの故郷と思えるところ、もしくは、親の住んでいる(た)ところを出身地として下さい。また、地域ブロックとは、北海道、東北、関東、中部、北陸、近畿、四国、中国、九州、沖縄を指します。

- ①現在、出身地に住んでいる
- ②現在、出身地ではないが、出身地が存在する都道府県内に住んでいる
(出身地が名古屋市ならば、名古屋市以外の愛知県内の市町村に住んでいる。例、豊田市)
- ③現在、出身地ではないが、出身地が存在する地域ブロックに住んでいる
(出身地が名古屋市ならば、愛知県以外の中部地方の市町村に住んでいる。例、金沢市)
- ④現在、出身地が存在する地域ブロック外に住んでいる
(出身地が名古屋ならば、中部地方以外の市町村に住んでいる。例、鹿児島市)

(7) あなたにとって、仕事と住む場所のどちらが重要ですか？(1つだけお答えください。)

- ①仕事
- ②どちらかといえば仕事
- ③同じくらい
- ④どちらかといえば住む場所
- ⑤住む場所
- ⑥分からない

(8) あなたは、仕事や会社を選ぶとき、何を重視しますか？(3つまでお答えください。)

- ①企業イメージ(人に誇れる)
- ②企業の安定性や将来性
- ③給与
- ④労働条件(転勤の有無、福利厚生、休暇など)
- ⑤事業分野・内容(例えば、半導体、環境、エネルギー)
- ⑥仕事の内容(やりたい仕事がある、仕事を通じて成長できる)
- ⑦勤務もしくは立地場所 ⇒同業他社が集積する地域
- ⑧勤務もしくは立地場所 ⇒賑やかな都会
- ⑨勤務もしくは立地場所 ⇒自然が豊かで、のどかな地域
- ⑩勤務もしくは立地場所 ⇒ほどよく都会で、ほどよく自然がある都市

⑪勤務もしくは立地場所 ⇒出身地

⑫その他 ()

⑬分からない

(9) あなたは、住む場所を選ぶとき、何を重視しますか？ (5つまでお答えください。)

①都市のイメージがよく、友人などに自分の住んでいる街を自慢できる

②おしゃれな商業施設や飲食店が集積し、活気がある

③コンサートやスポーツなどのイベントが多くあり、またナイトライフも充実している

④スーパーマーケットや銀行などが集積し、公共交通が整備され、便利である

⑤公園や街路が整備され、街並みがきれいである

⑥歴史的建造物が多く、きちんと保存されている

⑦犯罪、災害、交通事故などが少なく、安全である

⑧医療、福祉、子育て支援などが充足し、安心して暮らせる

⑨いじめや暴力などが少なく、教育環境が荒廃していない

⑩教育水準が高い

⑪図書館・書店、美術館、能力開発・生涯教育機会などが充実している

⑫住宅を比較的安く、利便性や自然環境が良いところに、取得もしくは賃貸できる

⑬食生活が豊かである (食べ物が安くておいしい)

⑭生活コストが安い

⑮日帰り圏内に、観光地やリゾート地が多くある

⑯ほどよく自然が豊かであり、またアウトドア施設も充実している

⑰行政サービスが充実している

⑱上下水道やゴミ処理などのライフラインがしっかりしている

⑲親・兄弟や親類が近くに住んでいる

⑳友人や同級生など知り合いが多く住んでいる

㉑その他 ()

㉒分からない

(10) あなたにとって、現在住んでいるところを含め、住んでみたいところはどのような都市ですか？ (1つだけお答えください。)

①首都圏

②大阪圏、または名古屋圏

③地域ブロックの中核となる都市 (札幌市・仙台市・広島市・福岡市)

④県庁所在都市、または政令指定都市 (但し、三大都市圏、地域ブロックの中核都市を除く)

⑤規模に関わらず出身地

⑥場所はとくに拘らない

⑦その他 () (理由:)

⑧分からない

(11) あなたは現在、住んでいる都市に愛着がありますか？（1つだけお答えください。）

- ①愛着がある _____
 - ②どちらかといえば愛着がある _____
 - ③どちらかといえば愛着はない _____
 - ④愛着はない _____
 - ⑤どちらとも言えない
- 問 12 へ
- 問 13 へ

(12) 問 11 で、愛着がある、どちらかといえば愛着があるとお答えの方にお尋ねします。その理由は何ですか？（1つだけお答えください。）

- ①出身地であり、慣れ親しんでいる地域であるため
- ②出身地であり、かつ都市機能も充実しているため
- ③出身地ではないが、長年住み慣れているため
- ④出身地ではないが、都市機能が充実しているため
- ⑤出身地にはない魅力があるため（具体的に _____）
- ⑥その他（ _____ ）（理由： _____）

(13) 問 11 で、愛着はない、どちらかといえば愛着はないとお答えの方にお尋ねします。その理由は何ですか？（1つだけお答えください。）

- ①出身地だが、なんとなく馴染めないため
- ②出身地だが、現在よりも大きな都市に転出したいと考えているため
- ③出身地だが、現在よりも小さな都市に転出したいと考えているため
- ④出身地に戻りたいと考えているため
- ⑤出身地ではないので、現在よりも大きな都市に転出したいと考えているため
- ⑥出身地ではないので、現在よりも小さな都市に転出したいと考えているため
- ⑦その他（ _____ ）（理由： _____）

(14) あなたは、退職した後、こういったところに住みたいですか？（1つだけお答えください。）

- ①現在のままでよい
- ②出身地に戻りたい
- ③便利な都会に転居したい
- ④安全、かつ安心して暮らせる場所に転居したい
- ⑤生活コストが安いところに転居したい
- ⑥その他（ _____ ）
- ⑦分からない